



平成15年度指定 高指第104号

般若 保

生年／昭和16年 指定技術名／銅器・双型 住所／高岡市五十里1587



ふきわけかき

吹分花器

双型鑄造技術を応用した現代的な造形で、意匠の流麗さと技術の精巧さが際立つ作品である。この花器は、豊富な経験と高度な技術を必要とする吹分技法により鑄造されており、鑄型に交互に流し込まれた黒味銅と茶真鍮が織り成す神秘的なコントラストと、そこに割り入る鑄ぐるみによる銅の閃光が、効果的に融合され、勇壮な景色を現出させている。

平成18年作

素材・技法／黒味銅、黄銅、銅・吹分

寸法／高さ21cm×幅40cm×奥行18cm

[表彰・受賞歴]

- 昭和50年 伝統工芸日本金工展初入選 (以後、30回)
- 昭和52年 日本伝統工芸展文部大臣賞(国立近代美術館蔵)(以後、28回入選)
- 昭和58年 全国青年伝統工芸展通産大臣賞
- 平成 5年 日本伝統工芸展総裁賞
- 平成 9年 高岡市民文化賞
- 平成27年 高岡市民功労者表彰
- 平成28年 瑞宝単光章

[経歴]

- 昭和34年 父与吉、兄茂雄、昭三より双型法による技術全般を習得する
- 昭和44年 中村義一氏に師事し、双型法の鑄押、変形型等を習得する
- 昭和54年 富山技能開発センター(現ポリテクセンター)にて成人訓練の講師を務める(～60年)
- 平成 7年 宮内庁献上品制作「吹分花瓶」
- 平成14年 日本伝統工芸展鑑査委員
- 平成16年 伝統工芸士に認定
高岡市伝統工芸産業技術保持者指定
- 日本工芸会正会員、日本鑄金家協会会員、富山県鑄物木型技能士副会長、1級鑄物技能士 技能検定委員